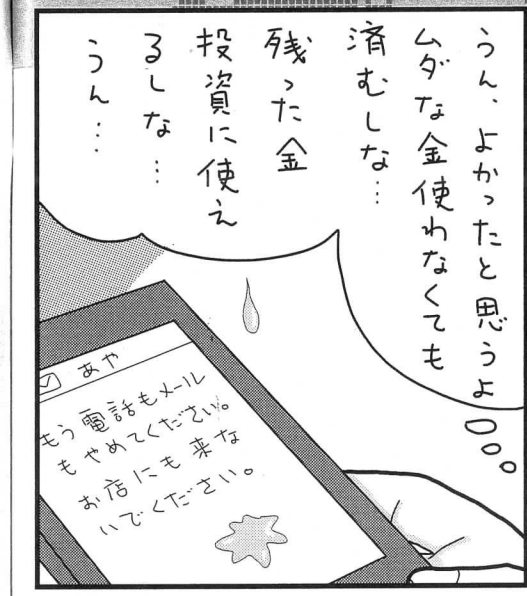
投信開始

コツコツ型からアクティブ型まで、初心者でも一発理解

利回り7～30%1万円から始める投資信託入門

株やFXよりも地味な印象の投資信託。だが、最近はネット証券で販売手数料無料のノーロード型が充実し、初心者も手が出しやすい。平均利回り7%のインデックス投信から、年間30%のリターンも期待できるアクティブ投信まで、初心者にもわかりやすく解説する。



なぜ、投資信託は素人が手を出しても安心なのか？

投資はしてみたいけど、値動きの早いFXや株に素人が手を出すのはちと怖い。そんな投資初心者にお勧めなのが、ローリスク・ローコストで始められる投資信託だ。投資信託とは、投資家から集めた資金をプロが運用し、運用成果をもとに収益を分配する金融商品。

「投資信託は元本保証こそありませんが、投資対象が分散されているため、自分で個別銘柄に投資するよりリスクが低い。さらに、最近はネット証券を中心に、販売手数料無料（ノーロード型）のファンドもどんどん出てきているうえ、1000円からスタートできる商品も増えているので、1万円もあれば手軽に始められます。大儲けの可能性はFXや株より少ないけれど、リスクが低いので、初心者が始めるのに最適な投資方法だと思います」（マネックス・ユニバーシティ代表、内藤忍氏）

投信の第一歩はファンドの選択から

「まず、ファンドの投資対象にはいろいろなエリアがあります。たとえば、国内の公債や社債に投資する国内債券、国内企業に投資する国内株式、海外の公債や社債に投資する海外債券、海外企業に投資する海外株式、その他という形です。それ以外にも、MRFやMMFなどの流動性の高いものや金（ゴールド）のようなコモデティや不動産投資のREITなどがあります」（ファイナンシャル・プランナー、伊藤亮太氏）

投資信託ファンド種類別一覧	
国内債券ファンド	日本国内の公社債に投資
国内株式ファンド	主に日本国内の株式に投資
海外債券ファンド	海外の公社債に投資
海外株式ファンド	主に海外の株式に投資
その他	不動産投資信託(REIT)、MRF、MMFなど

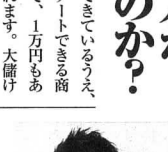
ポイントは、ひとつのファンドを単一買いするのではなく、バランスを重視して複数購入すること。自分の好みや予測を基に、ファンドを組み合わせていくのだ。

「安定性が高く、守りの資産である国内債券、リスクは高いが高リターンが期待できる海外株式など、ファンドの種類によって長所短所がある。それぞれのファンドのリスクとリターンを考慮した組み合わせや配分を考え、長期的に資産を増やしていくんです」（内藤氏）

さて、投資する対象をある程度見極めたら、次に必要なのが運用方法の決定だ。投資信託の運用は、インデックス投信とアクティブ投信という2種類に分けられる。

伊藤亮太氏

ファイナンシャル・プランナー。スキラージャパン取締役。企業向けの資産運用セミナーなどで多数講師を務める。著書に「ゼロからわかる金融入門 基本と常識」などがある



内藤忍氏

マネックス・ユニバーシティ代表取締役社長。早稲田大学のオープン講座や、丸の内朝大学などで講師を務める。「内藤忍お金の話をしませんか」、「60歳までに1億円つくる術」など著書も多数

安定型のインデックス、積極型のアクティブ

「インデックス投信とは、たとえば日本株なら日経平均やTOPIXのような指標と同じ値動きを目指すもの。平均値を狙いにいくので、全体の動きと同じ成果が得られるのです。平均値というとなんだかリターンが少ない印象がありますが、上手に組み合わせればそれでも平均で6～7%のリターンは期待できます。数か月単位で利益が出るものではないので、最低数年は持つことが前提にはなりますが、株やFXのように終始値動きを確認する必要もないし、年に一回リバランスするだけでいいので、手間もあまりかかりません」（内藤氏）

年間7%でも銀行預金に比べれば十分魅力的だとは思うが、それでもやはり「大きく儲けたい」という人は、アクティブ投信を選択するのがお勧めだ。

「こちらは株やFXと同様、ややリスクは高いものの、リターンも大きくなる可能性があります。でも、株やFXと違うのは、プロが運用し、分散投資されるため、リスクが低減できる点でしょう。モノによっては年間30%以上のトータルリターンがあるファンドもあるので、見極め次第では大きく儲けられます。ファンドを選択する際に、まず見るべきなのは、前年度までのパフォーマンス。年間、3年単位などでチャートを見比べて、右肩上がりになっているかどうかは最低限チェックを。あとは、純資産額。100億円以上の大きいファンドを選択するのがいいでしょうね。純資産額が大きいほど償還のリスクも減るし、プロが運用する幅も広がりますので」（伊藤氏）

そして気になるのはファンドの種類。伊藤氏いわく、国内景気がパッとしない現在は、海外を軸に投資するのがベターだという。

「アグレッシブに攻めるならば、株式だと新興国。特に、ブラジル、インドネシアは面白くなりそう。リスクはありますが、モノによっては年間30%くらいのリターンがあります。海外債券なら依然としてアメリカがお勧め。国内に関しては、REITでしょうね。今年は日銀の金融緩和の影響などで、大幅に値上がりしたものもありますし、予想利回りが5%以上のものも多い。通常の投資信託でもREITに投資するもの（インデックス型が通常）もあります。リーマンショック後の不動産不況から、現在日本は立ち直りつつあるところですから、REITはまだまだ伸びると思います」

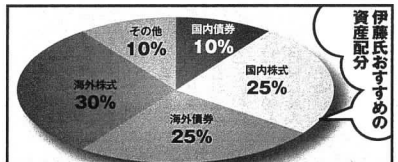
インデックスで手堅く増やすか、アクティブで積極的に攻めるか。定期預金の金利が年0・2%前後といわれる現在、預金での資産形成には限界がある。どちらにせよ始めておいて損はないのでは。

アクティブ投信注目ファンド名一覧

	ファンド名	トータルリターン（1年単位）	最低申込金額	セレクト理由
国内債券	物価連動国債ファンド（3か月決算型）	5.80%	1万円	物価の変動に合わせて利回りが変動する物価連動型。物価が上がれば利回りも上がるし、物価が下がれば利回りも下がる。インフレ対策に最適
国内株式	コロンブスオープン（ジャスダック・成長株）	3.40%	1万円	成長が期待できるベンチャー企業の株式に投資。マイナーだが景気が良くなれば上昇の可能性もあるため、国内株なら押さえておきたいところ
海外債券	野村 米国ハイ・イールド債券（ランド）毎月	20.37%	1万円	米国のハイ・イールド債券に投資しつつ、通貨は南アフリカランドを選択。円安ランド高になれば為替差益も狙え、利回りも上がる可能性も
海外株式	ブラックロック・ラテンアメリカ株式ファンド	12.00%	1万円	資産7割を人気のブラジル株で構成。そのほか、急成長中のアルゼンチンなど日本では投資できない株式も組み込まれており、今後の躍進に期待
その他	住信 J-REIT・リサーチ（毎月決算型）	9.9%	1万円	REITはこの半年間で飛躍的上昇傾向にあり、まだ伸びる可能性が高い。同社はネット証券で購入できるので申込金額も安い

伊藤氏のセレクトファンド一覧。「現在は円高なので、海外モノのほうが狙い目。ただし、上記ファンドを同時にすべてポートフォリオに組み込むのはリスクが高いので注意を」と伊藤氏

「国内・海外の株式と債券を中心にバランス良く組み合わせて、リスクを抑えながら、積極的にリターンを狙うのが基本形。投資初心者はここからスタートして、徐々に自分で微調整していけばよい」



「儲けを考えるのなら、海外モノを多めにして、安定要素となる国内債券は変動も少ないので抑えめに設定。その他の10%に関しては、現在高利回りが見込めるREITあたりを狙ってみるのがいいのでは」

証券会社を通さず買える「直販投信」ってなに？

運用会社が個人投資家に直接販売する投資信託のことを直販投信という。一般的に投信を購入する際には2%程度の「購入手数料」がかかるが、直販であるため一切なし。また保有期間中に徴収される「信託報酬」に関しても、証券会社や銀行といった販売会社を通さないので、通常の半額程度である1～1・5%辺りになっている。

「コストが安く、なかにはインデックスファンドを上回る成績を出しているファンドもあります。長期積み立て投資用に作られたものがほとんどでサラリーマン向け。よって積立比率が高く、毎月資金が入ってくるので、株価が低迷しているときにも買えるのが強み。結果、市場平均を上回る実績を上げているものがあるというのも納得です」（伊藤氏）

現在、全11銘柄。'99年誕生の日本初直販投信で2000億円以上の資産がある「さわかみ投信」や、ここ1年でのトータルリターンが4・1%と好調な「ユニオンファンド」辺りがお勧めか。

直販するのは独立系運用会社であるため、例えば大阪のおふくろが作った投資信託＝「浪花おふくろファンド」など、変わった名前が多いのが特徴的。ちなみにここのトータルリターン（1年）は2.9%

取材・文／ウエノモツアキ　長村はるみ　イラスト／小田原ドラゴン